

麦類の赤かび病は適期に防除を行いましょう！

麦類の赤かび病菌は、人畜に有害なかび毒（DON、NIV等）を産生するため、赤かび粒の混入した麦は販売できません。このため予防的な防除を行い、赤かび病の発生防止に努めることが重要です。本年の麦類の生育は冬季の低温により遅れていましたが、3月に入ってからの高温により生育は戻りつつあります。3月22日発表の1か月予報では気温が平年並～高い予想のため、今後の気温の推移によって出穂期の遅れは小さくなる可能性があります（表1）。

出穂や開花状況をよく観察して、適期に赤かび病の防除を行いましょう。

表1 出穂期予測（農業試験場11月上旬播サチホゴールド、3月19日茎立期、出穂期平年値4月15日）

	茎立期以降の平均気温の推移		
	平年並	平年より1℃高い	平年より2℃高い
出穂期 (平年値との差)	4月20日頃 (5日遅い)	4月17日頃 (2日遅い)	4月13日頃 (2日早い)

【防除対策】

- ・麦類の生育状況に合わせた適期防除が重要。六条大麦や小麦は2回防除が基本（表2）
- ・薬剤耐性菌の発生を予防するため、異なるグループの薬剤を使用する（表3、4）

表2 麦種ごとの防除適期

麦種	防除適期	多発の恐れがある場合 (不稔粒発生や登熟期連続降雨など)
二条大麦	穂揃期7～10日後	1回目の7～10日後に2回目散布
六条大麦	開花始めと1回目の10日後の2回散布	3回目散布
小麦	開花始めと1回目の20日後の2回散布	3回目散布

表3 麦類赤かび病に登録のある主な薬剤（平成25年3月25日現在）

グループ名	薬剤名	作物名	希釈倍数 (使用液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数
DMI剤	シルバキュアフロアブル	大麦	2,000倍 (60～150L/10a)	14日前まで/2回以内
		小麦	2,000倍 (60～150L/10a)	7日前まで/2回以内
	ワークアップフロアブル	大麦	2,000倍 (60～150L/10a)	14日前まで/2回以内
		麦類 (大麦を除く)	2,000倍 (60～150L/10a)	14日前まで/2回以内
	チルト乳剤25	小麦	1,000～2,000倍 (60～150L/10a)	3日前まで/3回以内
ベソゾイミダゾール系	トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	1,500倍 (60～150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)
		小麦	1,000～1,500倍 (60～150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)
QoI剤	ストロビーフロアブル	麦類 (小麦を除く)	2,000～3,000倍 (60～150L/10a)	14日前まで/3回以内

表4 無人ヘリコプターによる散布の登録がある主な薬剤（平成25年3月25日現在）

グループ名	薬剤名	作物名	希釈倍数 (使用液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数
DMI剤	シルバキュアフロアブル	大麦	16倍(0.8L/10a)	14日前まで/2回以内
		小麦	16倍(0.8L/10a)	7日前まで/2回以内
	ワークアップフロアブル	大麦	10～16倍 (0.8L/10a)	14日前まで/2回以内
	チルト乳剤25	小麦	8倍(800mL/10a)	7日前まで/3回以内
ベソゾイミダゾール系	トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	8倍(0.8L/10a)	21日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)
		小麦	8倍(0.8L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)

詳しくは、農業環境指導センター（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>）までお問合せ下さい。
(TEL 028-626-3086)